

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
商法 Commercial law		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義		選択	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
法学・民法Ⅰ・不動産関係法				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
権利意識、規範意識を育てるに有効な法律に関する科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
高須則行	非常勤講師 室	出講日	授業中に指示します	
授業の概要				
ほとんどの皆さんが就職して会社に勤めるとしています。そこで、この授業では、皆さんが勤める会社の仕組み、取引がどのようになされるべきなのか、取引が守られなかった場合にはどのように処理されるのか、さらには、働く人たちはどのように守られているのかを説明します。				
授業の到達目標				
①コンプライアンス(法令順守)の重要性を理解することができるようにする。 ②会社の仕組みを理解することができるようにする。 ③契約の意味とその不履行の場合の民事責任を理解することができるようにする。 ④従業員の法的保護等を理解することができるようにする。				
授業の方法				
講義形式で行いますが、その都度、受講生の皆さんに質問し、自らの考えを述べてもらいたいと思っています。そのような双方向の授業を心掛けていきたいと思っています。				
学習の成果				
①コンプライアンス(法令順守)の重要性を理解し、説明することができる。 ②会社の仕組みを理解し、説明することができる。 ③契約の意味とその不履行の場合の民事責任を理解し、説明することができる。 ④従業員の法的保護等を理解し、説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	商法へのいざない			
第2回目	現代のビジネス社会と法務			
第3回目	企業の倫理と社会的責任			
第4回目	コンプライアンス(法令順守)の意味と重要性			
第5回目	契約の基礎知識：契約の定義と契約自由の原則			
第6回目	取引と契約文書：契約書の必要性			

第7回目	不動産売買契約の成立—手付と契約	
第8回目	契約不履行	
第9回目	民事責任	
第10回目	会社の組織(1)：会社と株主	
第11回目	会社の組織(2)：取締役・監査役・従業員	
第12回目	会社と従業員：労働法(企業と従業員との関係)	
第13回目	雇用条件と法規制	
第14回目	解雇と法	
第15回目	まとめと試験	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
		評価の基準
授業参加態度		
レポート		
調査報告書		
小テスト	60%	基本的・個別的知識の理解度
中間・学期末試験	40%	発展的・全体的知識の理解度
発表内容(態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
山川一陽・根田正樹編著『ビジネス法務の基礎知識[第2版]』(弘文堂)		
履修上の心得・ルール		
教科書を持って来て、授業に参加することは当然ですが、念のためにここに記載しておきます。テキストは必ず持ってくること、板書の内容は整理してノートに取ること。		